

食器3種重ね「だるま」

高経大生アイデア 三美堂が商品開発

食器卸売りの三美堂（高崎市上並榎町）が、高経大の学生のアイデアを基に、高経だるまをモチーフにした磁器製の食器3点セット「かさねだるま」を開発した。「群馬での思い出を重ねる」をテーマに、3種類の食器を重ね



「かさねだるま」を手にする吉村社長（右）とアイデアを出し合った学生

るとだるまが形作られるユニークな商品に仕上げた。

同社が展開する群馬発のプロジェクトブランド「フーラー」の新商品。2022年度の同大地域政策学部観光政策学科ゼミの指導教員、小牧幸代さん(57)が市内企業とコラボレーションして新商品を開発する授業をした。同ゼミの2年生6人が「新しいお土産を作る

うプロジェクト」を進め、うつわ演出家の吉村聡社長(38)が協力し産学連携で商品を完成させた。

メンバーのドイツ人留学生による母国の焼き物メーカーで器を重ねると球状になる商品があるというアイデアを出発点に、日本のだるま落としのイメージも掛け合わせた。食器はスープカップ、小皿、茶わんで、重ねるとだるまの置物にな

る。茶わんにだるまの顔、カップはだるまの胴体や土台を表現した。高さ12センチ、直径12・5センチ。赤白、黄、黒、青、緑の6色を用意した。

プロジェクトリーダーを務めた同大4年の吉田安里さん(21)は「企業の協力でみんなのアイデアが商品として実現でき感動する」と喜ぶ。吉村社長は「1人暮らしで重宝する

3点セット。これから群馬で暮らす人、離れる人がこの食器と共に思い出を重ねてほしい」と呼びかける。

6380円。みなかみ町の谷川岳ロープウェイと自社サイト「フーラー」で販売している。問い合わせは同社(☎027・362・7167)へ。

(林哲也)